

カナキヌマブによる抗炎症治療で心臓血管イベントを抑制

これまでの実験や臨床データでは、脂質値を低下させずに炎症を抑えると心臓血管病のリスクが低減されることが示唆されている。本研究では、インターロイキン-1 β を標的とするヒトモノクローナル抗体のカナキヌマブの心臓血管イベントへの効果について検討した。

心筋梗塞の既往があり、高感度 CRP 値が 2mg/L 以上の患者 10,061 例を対象としたプラセボ対照無作為化二重盲検試験を実施した。対象者を無作為に 4 群に分け、カナキヌマブを 50mg、150mg、300mg とプラセボを 3 ヶ月ごとに皮下投与した。試験開始 48 ヶ月時点で、高感度 CRP 値の試験開始時からの減少量の中央値は、プラセボ群に比べて 50mg 群で 26%、150mg 群で 37%、300mg 群で 41%大きかった。脂質値の試験開始時からの減少はカナキヌマブ群では認められなかった。中央値 3.7 年の追跡時点において、心臓血管イベント（非致死的心筋梗塞、非致死的大脑卒中、心臓血管死）の発生リスクは、プラセボ群と比べて 150mg 群のみが有意に 15%低かった（ハザード比 0.85）。一方で、致死性感染症の発生率については、カナキヌマブ群がプラセボ群に比べて高かった。全死因死亡率は、両群で同等であった。

したがって、抗炎症治療にカナキヌマブ 150mg を 3 ヶ月ごとに投与することで、脂質値を低下させなくても心臓血管イベントの再発を有意に抑制できることが示された。

出典：New England Journal of Medicine. 2017; 377(12): 1119-1131